

京都

Kyoto Dayori

だより



カトリック桂教会聖堂 元.6.25

●けんちくつれづれ草 第155回
物を捨てるという事は・

●事業案内

令和元年度 監理技術者講習
歴史的建造物の保存と活用講座

「京都府の民家を学ぶ」② ―京都府北部見学会

●お知らせ

2019年度 第1回 すべての建築士のための総合研修
一級／二級／木造建築士 定期講習

●特集 京都市内産木材「みやこ杉木」
そまぎ

●京都府の民家 第3回

南山城型(四間取り型)の民家と町家

●作品紹介

HUG GARDEN ほしのさとKids 高橋勝建築設計事務所

●きょうと・人・まち・であいもん

7月のテーマ「防災・いまをつたえる」

「まちづくり」会員紹介

●支部だより 宇治川塔の島地区改修事業完成

●うちの本棚・今月の一冊 「河童が覗いたヨーロッパ」

●募集 「京都だより」作品紹介ギャラリー

●表紙のこぼし 「カトリック桂教会聖堂」

September
2019
No.518

9

一般社団法人 京都府建築士会

つれづれ草

6月末に大阪で開かれた主要20か国（うがった呼び名ですね）地域首脳会議では、プラスチックによる地球規模の海洋汚染が主たる議題となりました。私たちは、ゴミの問題が政治的な駆け引きに使われる等という事を、十年前に考えたでしょうか？

私たちは、政治的には考えなくとも、廃棄物の問題はあらゆる面で問題にはしてきたし、環境政策や産業という面ではそれなりのリサイクルはされてきている事から、自分たちが出したゴミが輸出（外国へ廃棄）され、産業に弱い立場の人たちの生活に食い込んでいる事などに注意を払ってきませんでした。今回、無関心や知らない事が罪であることを痛感した次第です。

現在の私たちは、あふれんばかりの物に囲まれて生活しています。様々な媒介で「こんなものを作りました。便利です。安いです。買って下さい。」と常に買う事を促します。新しく建つ大型店舗は衣料品や家電などの量販店と百円ショップのセットが定番となり、全国の幹線道路沿いに建設され、鉄道の主要な駅前には必ず「百均」があります。その様な店舗の中はプラスチックをはじめとする石油化学製品が詰め込まれており、生活の場に拡散を続けることで営業が成り立っています。

一方では、家庭の中に溜まってしまったモノを「捨てる」マニアル本が人気です。女性雑誌でも「収納・片づけ」の特集が組まれ、物を捨てれば、こんなにすっきり暮らせます、シンプurlライフがおしゃれですとうたっています。TVでは、片づけの専門家がモノに占領された住宅に踏み込んで、ばっさばっさとゴミ袋を積み上げていき、結果、必要最小限度の家具が収まっ

た、白い壁ばかりの部屋が映し出され、「快適に美しくなりました！」とスタッフを感嘆させます。

十年ほど前から団塊の世代の老後を見越した「断捨離」「終活」という言葉が流行し、一世代前の、物を捨てることへの小さなごめんなさいの意識を減少させてもくれました。

そこには捨てる側の都合のみで、捨てる事が持つもう少し深いところが何も語られていません。そもそも何をどの様に捨てて行くのか・・・なぜ捨てなくてはならないのか・・・そしてそのゴミはどのようにしていくのか・・・

古民家や町家の改修や継承事業に関わっていると、捨ててしまった記録や物を悔む場面に多く出会います。自分たちの一世代前の人たちに纏わる様々な物たちが、たまたま今関わった人の一存で廃棄されます。

もともと日本家屋は物を少なく生活するように作られていました。その代わりに構成している素材は、材料や意匠がきちんと説明できるものでした。又、住まう人数や行事によって部屋を使い分けていました。今、そのままに現代の生活ができるわけがありませんが、部屋に用途を付けることで、少ないものを工夫しながら空間をデザインし、暮らしていく事を、私たちは近年で放棄したように思います。和室が少なくなり、それぞれの部屋に異なる必要な物が置かれます。部屋の用途が変わると今まで必要だったものが不要になり、廃棄されます。それを見越して、お手軽な家具らしき物、簡便な物で部屋を構成します。何時かその分がゴミになります。

「要らない物はタカラモノ」と称して、

処分の前に拾われた物たちを、次に使ってくれる人たちに手渡す活動をしています。土地・家屋の継承活動の間にやって来る様々な物たち。一世代前の物たちはプラスチックでつくられているものはごく少ないのです。

今回のG20の声明には2050年までにプラスチックの海洋汚染ゼロを謳いましたが、生産の抑制やリユース、リサイクルは大きくは明示されませんでした。

日本は、一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が世界第二番目といえます。私たちが今すべき事、まずは、買うものの量を減らし、身の周りの石油化学製品を見直し、次の世代にも通用できる建物や道具を作り、使って行く事。心して手に入れたものは、それだけ大切にされ、使う人と共に物語を作っていくはずですよ。



「要らない物はタカラモノ」からやって来た、丁寧に作られた家具たち

物を捨てるという事は・・・

お知らせ

2019年度 第1回

すべての建築士のための
総合研修

研修委員会

- CPD 4単位
- 日時 10月2日(水)
午後1時～4時55分
- 会場

■京都市会場

京都建設会館別館 4階会議室
※京都建設会館の駐車場は利用できません。公共交通機関等をご利用ください。

■舞鶴市会場

舞鶴21 2階会議室
※舞鶴市会場はインターネット配信による映像講義となります。

- 講師
関西ペイント販売(株) 杉田広訓 氏
株国原技術 吉井智恵 氏
株ムラジ設計事務所 村路弘志 氏
- 研修内容
地球温暖化における省エネ提案塗料について、並びにホームインスペクションにおける外壁調査と、その検証方法について、赤外線法を用いた検証技術を学ぶ。
- 定員
京都市会場 35名(先着順)
舞鶴市会場 20名(先着順)
- 受講料
・京都市会場：建築士会員／2,000円
CPD会員／3,000円 一般／4,000円
・舞鶴市会場：建築士会員／1,000円
CPD会員／1,500円 一般／2,000円

一級／二級／木造建築士
定期講習

【令和元年度 第3期】

建築士事務所に所属する建築士の方は3年に1度の受講が義務付けられています。建築士会は定期講習実施協力機関として登録講習機関である(公財)建築技術教育普及センターへ協力し、定期講習の適正な実施運営を行っています。

- 受付期間：※土・日・祝日は除く
受付中～11月13日(水)締切
- 受付場所：
(一社)京都府建築士会事務局
(一社)京都府建築士事務所協会事務局
- 講習日・会場・定員：
11月19日(火)京都テルサ 165名
【会場コード 5B-03】
- 実施団体：(一社)京都府建築士会
- 受講手数料：12,960円(税込)
※テキスト代を含む

令和元年度 監理技術者講習

事業委員会

- CPD 6単位
- 日程
第1回 令和元年9月11日(水)
第2回 令和元年11月27日(水)
第3回 令和2年3月4日(水)
- 時間 ※各日とも
受付開始／午前9時
運営説明／午前9時20分～9時30分
講習／午前9時30分～午後5時10分
- 会場 京都建設会館別館会議室
- 定員 各日とも40名
- 申込締切
講習日の7日前または定員に達し次第
※申込方法他詳細は、本会HPをご覧ください。
- 内容
『監理技術者講習』の大きな特徴は、『建築に特化した講習内容』であり、特にテキストは分かりやすく、建築施工実務に役立つだけでなく建築工事全体について学習できる充実した内容となっています。また、法定講習で同時に建築士会CPD認定研修でもあります。設計業務にのみ従事されている方も建築施工の知識を得るために、この機会にぜひ積極的にご受講ください。

歴史的建造物の保存と活用講座
「京都府の民家を学ぶ」②
京都府北部見学会

ヘリテージマネージャー委員会

- CPD 申請予定
 - 日時 11月23日(土)～24日(日)
 - 集合 午前9時40分
道の駅 宮津市観光交流センター
 - 見学先
丹後加悦ちりめん街道(尾藤家、旧加悦町役場他)、宮津市旧永島家、溝尻舟屋、大宮民家苑、宮津まち歩き(宮津カトリック教会、三上家住宅等)、西舞鶴まち歩き(若の湯、町家保存再生とまちづくり)
 - 講師 大阪産業大学デザイン工学部
准教授 中川 等 氏
 - 参加費 会員／5,000円
 - 定員 15名(申込先着順)
 - 内容
今年の「京都だより」で特集連載中の「京都府の民家」をテーマに座学と見学の講座を企画しました。
1回目は府下の6形式の民家の特徴や変遷などについて詳しく知識を付け、2回目は北部の民家を、3回目は南部の民家を、再生に取り組む建物や町並みも交え、寄稿者である中川等先生の案内のもと見学します。
- ※旅程表・注意事項等は、本会HPをご覧ください。

Event 2019
Calendar

10 ← 9

Exhibition
Seminar
Symposium
Event

	9	September
Sun	1	二級建築士設計製図試験受験講習会 応用6日目
Fri	6	歴史的建造物の保存と活用講座 「京都府の民家を学ぶ」①一座学
Mon	9	常任理事会
Wed	11	監理技術者講習
Sun	15	二級建築士「設計製図の試験」
Tue	17	七彩の会
Sat	21	建築士会全国大会「北海道大会」
Mon	30	支部長会議・理事会
	10	October
Wed	2	第1回 すべての建築士のための総合研修
Mon	7	常任理事会
Sun	13	一級建築士・木造建築士 「設計製図の試験」
Tue	15	七彩の会

※注意：京都建設会館の駐車場は
利用できません

参加申込

電話・FAX、またはホームページからお申し込みください。事業内容の詳細は、ホームページをご確認ください。

(一社)京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077
http://www.kyotofu-kenchikushikai.jp
E-mail: contact@kyoto-kenchikushikai.jp



上下水道局太秦庁舎



西京区役所洛西支所「きのひろば」



上京区役所総合庁舎



バスの駅(清水道)

また、市役所分庁舎で木質ペレットを燃料とするボイラーを導入するなど、エネルギーとしての利用も進めています。

その他に、本市では国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）の推進にも取り組んでおり、SDGsの理念を体现する取り組みとして、「みやこ杣木」を使ったSDGsカラーホイールの木製バッジを製作しました。これまでに本市職員だけでなく、多くの市民や民間事業者等の皆様に御賛同いただき、販売開始半年で約9千個を販売することができました。この「地域の木材を使い、製造工程で福祉事業所と連携

する（雇用創出に貢献）」という京都市発の形は、他府県でも広がりを見せているところです。

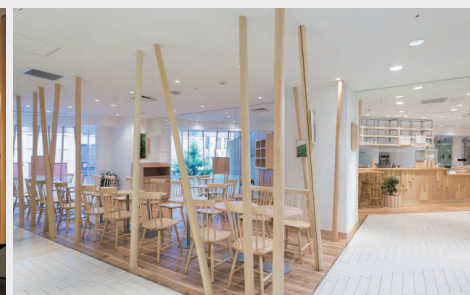
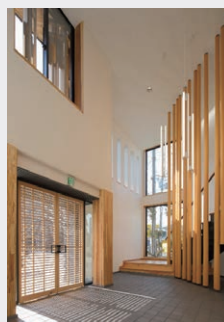


「みやこ杣木」を用いたSDGsピンバッジ

民間建築物での利用推進

公共建築物等での木材の率先利用に加え、「京都市地球温暖化対策条例」において、公共建築物だけでなく民間建築物を含め、延べ床面積2,000㎡以上の特定建築物に対し、地域産木材の利用を義務化しています。

併せて、市街化調整区域内における特別養護老人ホームの整備、上質宿泊施設の設置の条件の一つに「みやこ杣木」を設けるなど、民間建築物における木材利用も進めているところです。

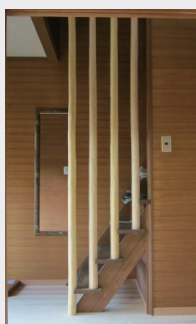


民間建築物での使用事例(市街地)

「みやこ杣木」を使用される方への支援制度があります

本市では、「みやこ杣木」をもっと身近で御利用いただけるよう、住宅や店舗等の新築・増改築やリフォーム、屋外広告物の設置に「みやこ杣木」を使用される方を対象とした支援制度を設けています。

いずれも先着順で、募集件数が埋まり次第終了となりますので、御検討される方はお早めにお問い合わせください。



住宅での使用事例

■助成対象

「みやこ杣木」を使用した住宅や店舗等の新築・増改築やリフォーム、店舗等に木製看板を設置される所有者又は使用者

■助成内容

設置区分	助成金額	助成上限	募集件数
住宅や店舗等の新築・増改築やリフォーム	材料代の9割相当	16万円/件	約30件
木製看板	看板製作代の9割相当	8万円/件	約30件

【「みやこ杣木」全般の御相談】 京都市産業観光局農林振興室林業振興課 TEL 075-222-3346 FAX 075-221-1253
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

【「みやこ杣木」の利用に関する御相談】 京都市域産材供給協会 TEL 075-406-2671 FAX 075-406-2823
〒601-0125 京都市北区中川川登74 ホームページ <http://miyakosomagi-e.net/>

京都市内産木材 [みやこ^{そまぎ}杉木]

京都市産業観光局 農林振興室 林業振興課

京都市内産木材「みやこ杉木」を使ってみませんか？

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成22年10月施行）を一つのきっかけに、全国的に木材を利用する流れがあります。また、改正建築基準法（令和元年6月施行）により、木材利用の幅が広がるなど、利用環境についても広がりを見せているところです。

木材は、伐採（利用）後に植えて育てるというサイクルにより再生が可能な資源で、特に、地域の森林で伐採した木材を地域で利用することは、輸送時に排出される二酸化炭素の削減のほか、林業をはじめとした関連産業の雇用機会の創出等による地域経済の活性化、森林の適切な整備の促進などに繋がります。

市域面積の3／4が森林という豊かな森林資源を有し、人口約147万人を抱え、木材の大消費地でもある京都市では、平成19年度に「京都市木材地産表示制度」を創設し、市内産木材の利用を推進しているところです。本市では市内産木材を「みやこ杉木」という名称を付け、「地産表示」だけでなく、建築用材として安心して御利用いただけるよう、必要に応じてJAS（日本農林規格）に準じた品質や性能等を表示しています。

本制度は、京都市森林組合、京北森林組合、京都北山丸太生産協同組合、京北銘木生産協同組合からなる京都市域産材供給協会が本市との協定のもと運用しており、同協会では「みやこ杉木」を分別管理する事業者の登録、公開や指導のほか、「みやこ杉木」の普及啓発や利用相談等に取り組まれています。



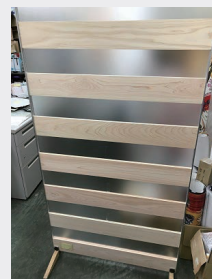
「みやこ杉木」認証マーク

「みやこ杉木」の種類や製品

樹種は主にスギやヒノキで、北山丸太も含まれます。京都市域産材供給協会に登録している事業者は約100社あり（平成30年度末）、構造材、造作材、下地材のほか、集成材（CLTやLVL含む）、構造用合板、木質ペレット、家具類、受水槽、机の天板やパーティションなど多様な製品で「みやこ杉木」を利用することが可能です。また構造用のJAS規格材を出荷できる事業者も増えてきています。



受水槽



パーティション

公共建築物等での使用事例

本市では、「みやこ杉木」の需要拡大のきっかけづくりとなるよう、広く市民の目に触れ、利用される公共建築物等において、木材、特に「みやこ杉木」の利用を進めています。

公共建築物においては、区役所等庁舎、学校等で、土木構

造物においては、工事用看板、転落防止柵や橋の欄干で、調度品類においては、学校図書館の机や椅子などで「みやこ杉木」を利用しており、特に、工事用看板や名所案内札（いわゆる駒札）などはまちなかで目にする機会が増えてきています。

南山城型（四間取り型）の民家と町家

中川 等



なかがわ・ひとし

大阪産業大学デザイン工学部准教授
京都市文化財マネージャー育成実行委員会委員
NPO法人古材文化の会副会長
NPO法人文化財修復構造技術支援機構理事
河内いえ・まち再生会議理事
専門／建築史、居住文化史
著書／『伝統的都市集住環境の空間秩序生成に関する研究』（共著）など



写真1 小林家住宅の敷地全景
(小林家住宅長屋門ほか四棟保存修理工事報告書)

南山城型（四間取り型）の民家

四間取り型の民家は、河内・大和・伊賀から山城南部にかけて分布する。外観は入母屋造・平入・草葺で、平面は整形四間取りを基本とする。床上は座敷・下の間・台所・部屋を田の字形に並べ、台所から土間に「広敷」という板間を張り出す。土間の前隅には内厩あるいは機部屋、後寄りには竈や流しなど炊事設備を配する。屋根構造は桷首組である。

1665（寛文5）年の小林家住宅（木津川市山城町／重要文化財）は南山城最古の民家である（写真1・2）。武士出身の旧家で、正面に長屋門を設ける格式的な屋敷構えをもつ。主屋はもと入母屋造・草葺であったが、のちに切妻造の高塀造に改められた。平面は整形四間取りを基本とし、

上屋柱の多くを1間間隔にたてること、小屋梁を折置き（柱の頂部に小屋梁をのせ、その上に桁をおく方式）に架けること、玄関・土間境の前寄り1間を土壁で閉ざすこと、台所・土間境の建具を突止め形式とすることなど古風な手法がみられる（図1）。高塀造は、本屋部分を切妻造の草葺屋根とし、塗り籠めた妻壁をたち上げて蟬羽に2列ほど瓦を葺いた造りである。竈のある土間部分と角屋座敷は瓦葺の落ち棟あるいは庇として取り付く。草葺屋根の端部、塗り籠めた妻壁をたち上げて瓦を葺いた部分を「高塀」と称し、高塀に面して瓦屋根を設けることで、竈屋土間は防火構造、角屋座敷は格式意匠をととのえる。高塀造は河内・大和を中心とした一帯にみられ、南山城は分布域の北限にあたる。入母屋造が一般的であった当地域にあつて、高塀造は18世紀に出現した。

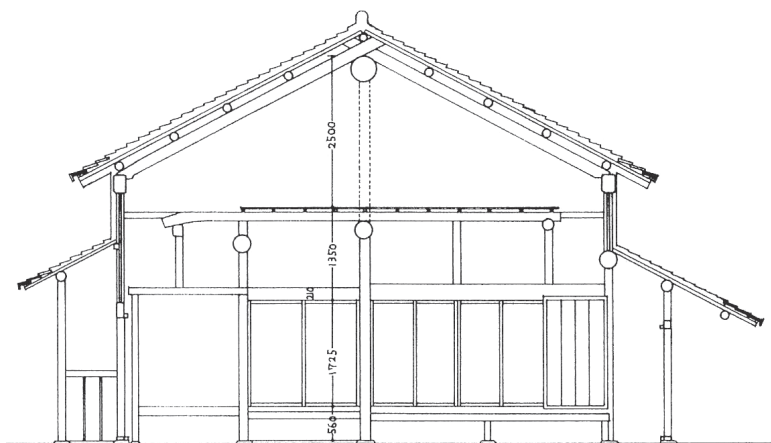


図2 旧近藤家住宅梁行断面図
(京都府の民家 調査報告 第七冊)

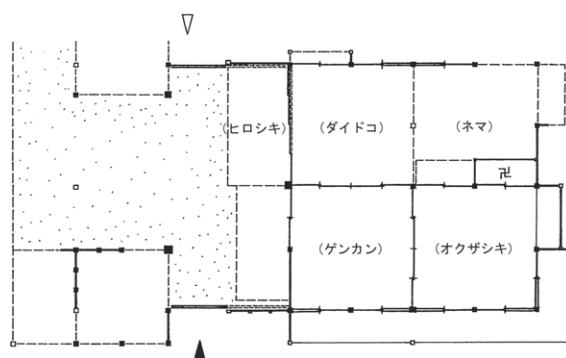


図1 小林家住宅復原平面図
(小林家住宅長屋門ほか四棟保存修理工事報告書)



写真3 澤井家住宅の座敷



写真2 小林家住宅の外観

南山城は京都府の農村部でもっとも早く瓦屋根が普及した地域である。府下で年代の明らかな最古の瓦葺民家は、1768(明和5)年の旧近藤家住宅(城陽市/現存せず)である(図2)。また、1781(天明元)年の河原村(木津川市加茂町)の村法度で小高(10石以下)の百姓が瓦庇付きの家を建てることを禁じていることから、18世紀後期には村法度で禁止するほどに普及していたと推察される。全国的には増田家住宅(和歌山県岩出市/1706年/重要文化財)が農村部における瓦葺民家の早い例である。

南山城の民家は、丹後・丹波の民家と比較して土間が広く、広い土間に発達した梁組がみられる。土間の中程にたつ太い柱から背面の側柱にかけて、「煙返し」という大梁を渡して、竈のある土間と居室側の土間を区切り、梁上部の土壁によって竈の煙が居室側に流れ込まない造りになっている(図3)。食事は、台所から土間に張り出した広敷で行われた。男性は土間に向かって台所のほうを向いて食事をした。女性の座席は、竈や流しにすぐに立って行けるので便利が良かったという。

民家の座敷はもととも先祖の霊をまつる室で、江戸初期から中期の上層民家では、しばしば書院風の座敷を別棟あるいは角屋として設けた。伊佐家住宅(八幡市/1734年/重要文化財)は、整形四間取りを基本として、床・棚・付書院を構えて長押をまわした書院風の8畳座敷を突出して設

けた(図4)。澤井家住宅(京田辺市/1741年/重要文化財)は、前身建物では主屋と別棟の座敷を付属したが、再建に際して角屋座敷として直接主屋に取り付く形式になった(写真3)。

南山城では、小林家・伊佐家・澤井家など大型民家がみられる一方、江戸中期から明治期にかけて三間取り・二間取りの民家が多かった。村全体の民家の間取りがほぼ判明する大野村『建家図面帳』(木津川市加茂町/1884年)によると、74戸のうち六間取り2戸、四間取り15戸、三間取り5戸、二間取り47戸、一間取り5戸で、二間取りが当時の一般的な住宅形式であったことがわかる。丹後・丹波と異なり、民家規模の格差が大きかったことも当地域の特徴である。

集落形態としては、中世に形成された環濠集落が少なくない。そのなかで木津川市山城町の上粕はもっとも大きな環濠集落で、東西330m、南北360mほどの規模をもち、戸数約300戸からなる。集落は旧奈良街道に沿って立地し、濠や竹藪、井戸が残り、長屋門を構えた民家や高塀造の民家が散見する。

城陽市寺田は、古代の条里制を踏襲して東西の街路を一町(約109m)ごとに配し、その両側に2列ずつ屋敷を並べる構成を基本とする。街路に面する前列の屋敷にはしばしば長屋門と土蔵を構え、街路に面さない後列の屋敷には街路から直角に路地(入り道)を設けて出入りする独特の集落形態を伝えている。

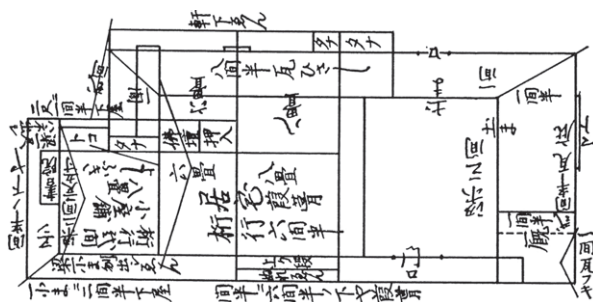


図4 伊佐家住宅普請願絵図
(主屋部分解説/伊佐家住宅(主屋)修理工事報告書)

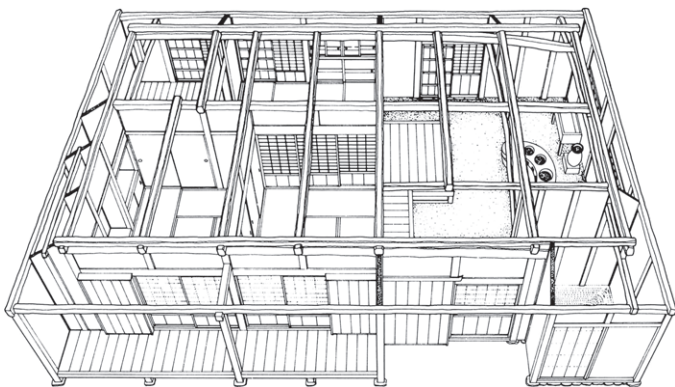


図3 旧松岡家住宅復原透視図
(加茂町史 第二巻 近世編)



写真5 杉本家住宅の外観



写真4 川北家住宅の外観

一京の町家・府下の町家

京の町家は、間口が狭く奥行の深い「鰻の寝床」という細長い敷地にたち、主屋はふつう切妻造・平入・棧瓦葺、表構えは千本格子・揚見世・通り庇・むしろ窓などからなる（写真4）。平面は、通り庭という土間に沿って表から店・玄関・台所・奥の4室を1列に並べる間取りを標準とし（図5）、間口が広い場合は居室を2列に配する。通り庭の奥には竈・流し・井戸など炊事設備を設ける。

表通りに面して店棟を構え、奥に平行して居室棟を建て、両者を玄関棟で接合する「表屋造」は京の町家の一到達点である。玄関棟の両側に中庭、居室棟の奥に奥庭をととのえ、建物と庭を交互に配置すること、奥行き深い住まいに光と風、そして庭ごとの美しさと季節感を取り込む。夏になると建具をすだれや蓆戸など通気性の高いものに改め、畳の上に網代や簾簾を敷き、適所に打ち水をするなど、蒸し暑い夏を涼しく過ごす伝統があり、建物のかたちを生かした暮らしの知恵が継承されている。

杉本家住宅（京都市下京区／1870年／重要文化財）は表屋造の大型町家である（写真5）。奈良屋の屋号をもつ呉服店で、京で仕入れて関東で販売するいわゆる他国店持京商人であった。幅の広い床・棚を備えた座敷や独立した仏間の構え、15畳大に復される台所など大店の風格をもつ。庭園や茶室、土蔵、高塀も含めて町家の屋敷構

えをよく伝えている。祇園祭では伯牙山のお飾り場となり、人々にぎわう。

京都の市街中心部は、天明の大火（1788）や元治の大火（1864）など度重なる火災のため、現存する町家の大半は幕末以後の建物である。大正期頃には、主屋を表通りに直面させず、通りに沿って高塀を構え、前栽や通路を隔てた奥に主屋を配する造りが目に付く。高塀はふつう瓦屋根、瓦庇、出格子などから構成され、町並みの連続性に配慮される。年代や職種によって京の住まいは多様なかたちをみせながら、多様性と統一性をなじみよく調和共存させた景観を受け継いでいる。

市街の中心部では、町家が長く連檐する町並みはあまり残っていないが、西陣では織物業を営む家々の佇まいが保たれ、山鉾町では商家や町会所が町の活気を伝え、本願寺寺内町では仏具・仏壇・仏書の店や旅館が風情を添えている。主屋の脇に路地を設けて、細長い路地の奥に長屋建の借家を建てることも多く、地蔵をまつるなど趣深い空間を構成する。

市街の周縁部では、東山麓の寺社と門前町の産寧坂地区、洗練された茶屋が並ぶ祇園新橋地区、豊かな自然に囲まれた街道沿いの嵯峨鳥居本地区、明神川に沿った旧杜家町の上賀茂地区（以上、重要伝統的建造物群保存地区）、酒蔵と商家の町並みが残る伏見、街道沿いの門前町の鞍馬、街道沿いの宿場町の榎原など、必ずしも町家に限ったものではないが、地域の歴史を伝える景観と風致を継承している。



図7 瀧澤家住宅平面図
（瀧澤家住宅修理工事報告書）

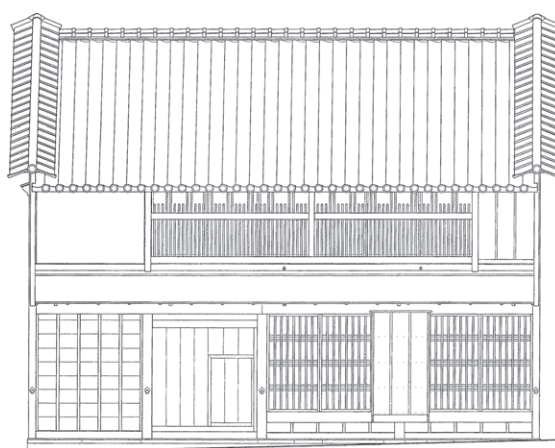


図6 瀧澤家住宅正面図
（瀧澤家住宅修理工事報告書）

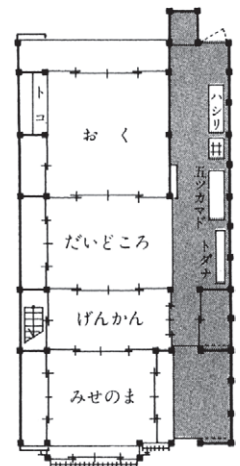


図5 京の町家の平面図
（日本の民家6）



写真7 須田家住宅の外観



写真6 亀岡市の妻入町家

瀧澤家住宅（京都市左京区／1760年／重要文化財）は洛北の鞍馬街道に面した旧炭問屋の家である（図6・7）。切妻造・棧瓦葺の屋根両妻に卯建をあげた古風な外観をもつが、当初は低い中2階で屋根・卯建とも杉皮葺であった。平面は通り庭に沿って3室を並べ、土間はやや広い。洛中の町家ではないが、建築年代の明らかな市内最古級の町家である。

府下では、宮津、西舞鶴、園部、亀岡、向日町など旧城下や街道筋に伝統的な町家と町並みが残っている。

宮津と西舞鶴は、日本海に面する良港で、城下町として発展、また海上交通の要地として栄えた。ともに廻船問屋や商家が軒を連ねていた往時の面影を伝える。旧三上家住宅（宮津市／1783年／重要文化財）は宮津城下有数の商家で、酒造業・廻船業・糸問屋などを営んだ（図8）。大規模な町家で、妻入の主屋を中心として、上手に座敷棟や表門、下手に釜場や酒造蔵などを配する。白漆喰の大壁や土戸など防火構造に徹した構えをもち、接客座敷や生業施設もよく保存されている。

丹波地方の旧山陰道に沿った城下や宿場には、妻入で正面に水切り庇を一、二段設け、妻壁を白漆喰などで塗り籠めた町家がみられる（写真6）。この形式の町家は、旧城下町である南丹市園部町や亀岡市などに残っており、ちょうど摂丹型妻入民家の分布地域と重なっている。現在の町並みは平入の町家も少なくないが、これは幕末以後の傾向である。むしろ窓や格子など共通

の要素をもちながら、平入の町家が続く京都の市中とはまた異なった町並みを展開している。

向日町は、西国街道と愛宕道、丹波道が合流する交通の要地として、また向日神社の門前町として発展した。須田家住宅（向日市／18世紀初期頃／府指定文化財）は、代々醤油の製造販売を営んだ（写真7）。当初は土間に沿って居室を3室並べる形式で、幕末期に上手列、明治期に奥座敷を増築した。登り梁を授首状に組む瓦屋根の古い構造を伝えている。富永屋（向日市／1735年）は、代々宿屋を営んだ旧家で、江戸後期の地理学者・測量家である伊能忠敬が宿泊するなど向日町の歴史を物語る文化資産である。

おわりに

京都府の民家は、丹後型（広間型）、北山型、北船井型、摂丹型、南山城型（四間取り型）に分類され、さらに町家を加えて6形式からなる。全国的にみて、一つの府域にこれだけ多彩な民家形式が分布していることは珍しい。それぞれの民家のかたちは、自然や歴史、社会など地域環境の中で、その地域ならではの特徴と魅力を育み、先人の知恵と経験を蓄積して、快適で豊かに暮らす仕組みを培ってきた。

地域の環境と共生し、文化を受け継いできた伝統民家の特徴と魅力に学び、今後の住まいづくり、まちづくりに活かしたいものである。



図8 旧三上家住宅正面図
（主屋部分／三上家住宅整備工事報告書）

●おもな参考文献

- 『京都府の民家 調査報告 第一冊～第七冊』京都府教育委員会、1966～75
- 大河直躬他『日本建築史基礎資料集成 2 1 民家』中央公論美術出版、1976
- 林野全孝『近畿の民家』相模書房、1980
- 関野克監修『日本の民家 1～8』学習研究社、1980～81
- 『重要文化財伊佐家住宅(主屋)修理工事報告書』京都府教育委員会、1982
- 『重要文化財瀧澤家住宅修理工事報告書』京都府教育委員会、1985
- 『京の住まい 地域の文化財としての民家』京都市文化財ブックス第8集、1993
- 『京都府指定有形文化財須田家住宅保存修理工事報告書』須田久重、1998
- 『京都府指定有形文化財三上家住宅整備工事報告書』宮津市教育委員会、2001
- 『京都府指定有形文化財(建造物)小林家住宅長屋門ほか四棟保存修理工事報告書』小林雅子、2002
- 『重要文化財澤井家住宅修理工事報告書』京都府教育委員会、2007

HUG GARDEN ほしのさとKids

山口県下松市

おとしよりの交流をうながす
小さな保育園

福祉施設ほしのさとに併設された定員19人の小規模な企業主導型事業所内保育所である。素朴で単純な切妻屋根の木造1階建てとし、屋根には石州瓦を採用している。この素朴な園舎を、庭をはさんで対面するデイサービスから観る景色づくりとも捉え、庭を囲む介護施設の利用者の心に馴染む風景づくりとなる事を意図した。

園舎は南北に長い長方形の建物を3個に分け、45°程度傾けながらジグザグに再配置することで保育室と遊戯室は南に面し、どこにいても明るい園舎となった。また各ボリウムの隙間の三角の空間は保育室専用のテラスや、デイサービスに向けて開く半屋外空間となり、多様な居場所を生み出している。保育室は庭に全面開放するのではなく、各保育室には遊び場としたくなる様な出窓を、デイサービスの軒下テラスに向けて配置したり、建物間の移動は園舎東側の軒下の外廊下とした事で、園児が動けばデイサービスからチャリと見えたり、園児がデイサービスを出窓から見たりと適度な距離の中で、お互いが気配での交流を促している。

(高橋勝建築設計事務所 高橋 勝)

建築主／社会福祉法人
くだまつ平成会
設計者／高橋勝建築設計事務所
構造設計／能戸謙介
施工者／アルフ

所在地／山口県下松市
用途／保育所
建築面積／221.08㎡
延床面積／172.48㎡
構造規模／木造地上1階

写真撮影／松村芳治

第10回 JIA 中国建築大賞
一般部門 優秀賞
日本空間デザイン賞2019 入選



庭向こうのデイサービスセンターを眺めるための窓



園庭に沿う軒下廊下

三角テラス、遊戯室、園庭が見える

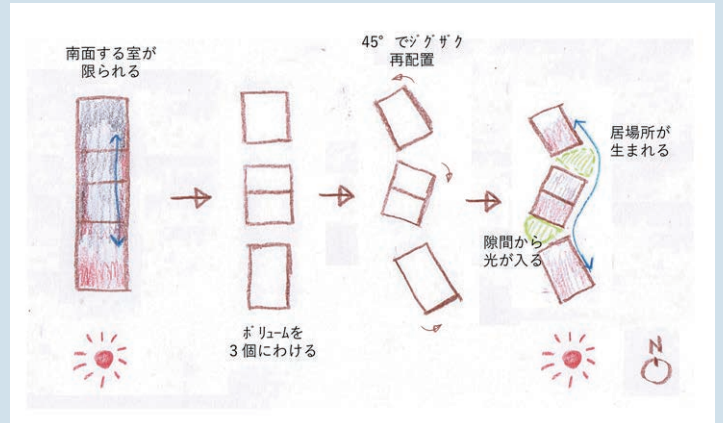


GALLERY

作品介绍



石州瓦の屋根が雁行する



建物をギザギザ配置にして豊かな居場所を生み出す



読み聞かせスペースとつながる三角テラス
さらに向こうに遊戯スペース





番組制作: (一社)京都府建築士会

2019 7月放送分

D E A I M O N

毎月第1・第3土曜日午後3時からFM79.7MHz放送

きょうと・人・まち・であいもん

7月のテーマ「防災くいまをつたえる」

「まちづくり」「会員紹介」

この番組は……

まちづくり委員会・放送担当部会が企画制作し、毎月第1・第3土曜にラジオカフェ(79.7MHz)よりお送りしています。毎回、京都で活躍されている方をゲストにお迎えし、その人をおして京都の文化、京都の暮らしを知り、京都のまちを伝えていきたい。人と人の出会い、繋がりを大切に、まちづくりを応援したい。という願いを込めて作っています。

インターネットから、今までの放送の記事を読んだり、音声聴くことができます。

<http://radiocafe.jp/200304003/>

この記事は放送した音声再度聴き取って記述したもので、文責は(一社)京都府建築士会にあります。

7/6

Sat

体験と備えが大切

京都市市民防災センターは平成7年9月1日にオープンし、今年で24年になります。平成7年の阪神淡路大震災から遡って約3年前から建築工事が進んでいました。完成間近に大震災が起こり、震災の教訓を伝えていきたいということでプログラムが変更されたと聞いています。

このセンターは災害の疑似体験をしていただく施設で、1階は地震体験、強風体験等の自然災害、2階では火災をテーマにした内容の体験ができます。平成26年にリニューアルし、水災害、特に地下街をテーマにして水が溢水したことを体験していただくことができます。これらの疑似体験を通して、災害が発生したときの対処方法を学んでいただくことと、それを受けて平常時にどういう備えをすればよいか考えていただくという、この2つのことを目指して作られた施設です。

10名以上では団体で予約をいただきます。事前にお電話で日時と人数をお知らせいただければ、滞在時間に合わせて、地震、強風、消火、避難、地下街の水害等を標準としてプログラムを組みます。個人でお越

しいただいても体験していただけます。災害発生時に核となる自主防災会のほか、PTAや子供会、女性会等の団体、小学校4年生は、社会科で防災のことを学ぶ授業としてお越しいただいています。幼稚園、保育園のご利用も多いです。「京都市」と名前はついていますが、京都市外の方にもご利用いただけます。南海トラフの大地震が2030(2040)年ごろと言われているので、その頃に防災のリーダーになってもらうよう、防災になじんでもらえるように子どもたちに体験してもらいたいと思っています。聞いたことや見たことは、たとえ普段忘れていても、体験していれば、体が覚えていてとっさに行動に移せることにつながると思いますので、体験は非常に大切だと思います。

また、「災害に強いまちづくり講座」という講演会を開催しています。水災害から身を守ろうというもののや、地震、自然災害等をテーマに5回の講演を計画しています。講師は専門の先生ですが、市民の方々にも分かりやすくかみ砕いてお話しただけなので好評です。

◆知識で分かっている、災害時にとっさに動けるかどうか自信がないです。お話を聞いて体験の大切さがわかりましたので、たくさんの方に京都市市民防災センターに行ってくださいと思います。(上原智子)

一般社団法人京都市防災協会 事業課長 南部雄二さん



これまで入館者の目標を10万人としていましたが、昨年は11万2千人という最高の入場者でした。今まで京都では大きな災害に遭っていなかったのですが、身近な災害があると関心が高まり、お越しいただく機会が多くなってきました。

京都の災害の歴史は、今から73年前に起こった1946(昭和19)年12月の南海地震(マグニチュード8クラス)、1944年には東南海地震(マグニチュード8)、1946年のさらに92年前、1854年12月24日の安政の南海地震(マグニチュード8クラス)では太平洋側の大きな被害と京都で大きく揺れた、という記録があります。このことから、100年から200年の間隔で大きな地震が来ているということがわかります。今後、2030年から2040年には、南海トラフ、東海地震が連動すると、非常に大きな地震が来ると考えられています。

水害や台風についても、備えが重要になってきています。施設では、風速32mの風、台風が直撃するときの強風を体験することができます。最近は気象情報などで、どれ

7/20

Sat

団地再生研究会が取り組んでいる 八幡市・男山団地での活動

団地再生研究会 松本 匠さん

UR男山団地は、1972年に入居が開始された4600戸からなる中層主体の賃貸住宅と、隣接する1360戸の中層分譲住宅からなる大規模団地です。現在、男山団地では京都府、八幡市、関西大学、UR都市機構の四者による「男山地域まちづくり連携協定」が締結され、団地環境再編や地域再生への取り組みが行われています。

京都府建築士会が男山団地の活動に参加し始めたのは、2015年の関西大学からの依頼によるもので、当初は青年部会内での活動でしたが、現在は昨年度より発足した「団地再生研究会」が関わっています。これまで、コミュニティスペース「だんだんテラス」での住まいの相談会やDIY



ワークショップの様子

ワークショップの開催、リノベカタログの作成などとともに、セルフリノベーション特区「ココロミタウン」や「だんだんLabo」開設に際しても、建築の専門家として協力し活動してきました。10月に行われる「男山秋祭り」に向けた取り組みとして、6月30日、壁紙の貼替えや塗装のワークショップを普段施工作業はしない設計職の研究会メンバーや関大生、UR職員を対象に行いました。

クロス貼りは、既存の壁紙のはがし方や下地の処理、壁紙貼りまで、研究会の塚本座長から指導を受けました。一般向けのイベントを意識したワークショップなので、わかりやすい説明が心掛けられているだけでなく、道具の揃え方など、参加者に役立つ内容が豊富に盛り込まれていました。そして、ペンキや漆喰塗装は、研究会メンバーの竹内真さんから指導を受けました。「1に養生、2に養生」と、必要のないところにペンキが付かないようにすることの重要性を徹底されていたのが印象的で、そのための道具としてマスカーやマスキングテープなどの種類の豊富さと、それらがホームセンターで購入できることが驚きでした。

今回の事前ワークショップを通して、団地再生研究会のメンバーが指導者、参加者双方の立場で感じたことを十分理解しあって、「男山秋祭り」で活かせるようこれから準備を進めたいと思います。

7/20

Sat

各スペシャリストで 土地探しから設計・施工まで

ハウスファクトリー有限公司 騎馬一晃さん

建築士会に入って1年になります。当社は中京区の四条御前あたりにあり、不動産業と建築業、そしてファイナンシャル・プランニングの各スペシャリストを集めて仕事をしています。京都の場合、土地が少ないので不動産会社ならではの物件探しから、その土地で設計、施工ができるので、お客様にとって満足度の高い提案をしています。物件としては戸建て住宅やマンション、店舗等の設計、施工をしており、京都市内を中心に宇治市、向日市、滋賀県の大津市や湖東方面をエリアにしています。

以前は分譲会社で大きな土地を開発して街を作る仕事に従事し、その後独立して6年です。事務所はカフェ・スタイルになっ



会社の外観



社内の様子

ていて、たまに近所の方がカフェと間違えて入って来られることがあり、折角なのでコーヒーを飲んでもらっています。その時はさすがに「家を建てませんか」とは言わずに世間話をしていきますが、まちのコミュニティ・スペースになればと思っています。プライベートでは、昔はマリン・スポーツ等、色々やっていましたが、最近は音楽鑑賞をしています。クラシックからR&B、ソウル等、さまざまな音楽イベントに行っています。それと、今は忙しくてなかなかできないのですが、日本の雅楽の龍笛を習いたいと思っています。龍笛の音色が好きで何故か魅せられて、すでに笛は購入しました。

建築士会では、会員厚生委員として会員同士の交流会や行事のお手伝いをしていきます。最近、放送担当部会にも入ったので、色々なことを発信していきたいと思っています。仕事の今後は、規模の大きい分譲等をどんどん手掛けていきたいと思っています。また、お客様本位で進めていける会社を確立させていきたいと思っています。

◆ハウスファクトリーでは各分野のスペシャリストを集めて業務されているので、建主の特殊な要望（土地、企画等）にも対応できるそうです。また建築士会活動にも積極的に取り組まれている、いつか趣味の龍笛も聴いてみたいです。（江坂幸典）





宇治川塔の島地区 改修事業完成

宇治支部 野川正克

令和元年6月8日、宇治川塔の島水辺フェス・塔の島地区改修事業完成記念式典が行われました。

国土交通省淀川河川事務所は2009年度から10年間、約60億円をかけ、宇治川と派川の塔の川で河床を掘削し、護岸を整備して、以前の約1・7倍の毎秒1500トンが流れるよう改修しました。

府も16年度から約3億円をかけて公園を整備して、石敷き舗装で歩きやすくし、トイレや照明灯も一新しました。

宇治川に浮かぶ中の島を「塔の島」と呼ぶと思っておられると思いますが、塔の島・橋島があり橋島の方が面積は大きいのです。宇治川の川岸と塔の島、橋島はそ



れぞれ喜撰橋、橋橋、朝霧橋、中島橋で結ばれて回遊できるようになっています。平等院・宇治神社・宇治上神社など近辺には世界文化遺産や重要文化財が多数あり、源氏ミュージアムや宇治茶道場匠の館、鶴飼をはじめ、抹茶カフェや美味しい料理をいただけるお店がたくさんあります。

宇治は本来、京の都の避暑地です。京都の地元の方々も是非、宇治観光を楽しんでいただきたいと思っています。

大学時代に読んだエッセイで真っ先に浮かぶのが、沢木耕太郎「深夜特急」、伊丹十三の「女たちよ」、妹尾河童の「河童が覗いた○○○（ヨーロッパとかインドとか）」。なんとなく懐かしくて、そんなエッセイもお店に置いてあります。

私たちの世代は、大学時代にこの旅のエッセイを読んで、バイトをしてお金を貯め、バックパッカーとして海外旅行するというのが、その時代の学生のちよつとしたトレンドでもありました。「地球の歩き方」が投稿型の口コミ情報誌で、本でしか海外の情報を得ることができなかった時代の話です。

この30年間ですっかり世の中は変わりました。インターネットが当たり前になり、SNSなどの情報網のおかげで世界との距離が格段に縮まりました。そんな影響でしようか、若者の海外渡航は、リピーターか全く興味が無い人たちの二極

化が進んでいると言われています。海外旅行に行く若者が年々減っていると聞き、身近な20代に尋ねると一度も海外に行ったことがないというではありませんか。建築を志す若者でもそうなのかと、いささか不安に感じました。

京都市内ではインバウンドという言葉が飛び交っていますが、2018年、観光庁は「若者のアウトバウンド推進実行会議」なるものを立ち上げたそうです。国も、若者のそんな傾向を深刻に受け止めているんですね。

建築に、旅は特に必要だと思ふんですが・・・インターネットは、一見に如かず、「可愛い子には旅をさせよ」。まだ海外に行ったことがない若者が身近にいたら、旅のエッセイをぜひ薦めていただけたらと思います。

(大喜書店 岡田良子)

【河童が覗いたヨーロッパ】

エッセイというよりも、イラスト日記に近いのですが、緻密な絵から旅の内容の濃さが感じ取れます。改めて読むと文章も手書きでしたね。さすが何年間も読み継がれる本だと思います。



著者：妹尾河童
発行：新潮社
定価：630円（税別）

大喜書店
京都市下京区麩屋町五条上ル下鱈町563番2
TEL：075-353-7169
OPEN：12:00～18:30 水曜日定休
(土・日・祝日は11:00～)
京阪・清水五条駅から徒歩5分

【2018年9月に引っ越しました。】

「京都だより」作品紹介ギャラリー

あなたの作品を広く紙面で紹介してみませんか？

本会では会誌「京都だより」に、会員の作品紹介ページを設けています。

建築、インテリア、ランドスケープなど、みなさまの個性あふれる作品をお待ちしております。

掲載に関して

- 募集対象は（一社）京都府建築士会会員が設計もしくは施工に携わったものとします。
- 掲載料は無料ですが、広報編集委員会にて選考の上、掲載させていただきます。応募作品多数の場合等は、掲載できないこともありますのでご了承下さい。
- 写真の撮影者名は必ず付記願います。写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて対応願います。
- 掲載頁数は原則として1頁とします。
- 建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いすることがあります。
- 作品の掲載順及び紙面レイアウトを含む全体の構成は広報編集委員会にて担当します。
- 概要及び説明文はメールで送付願います。

提出資料

- 写真／外観、内観等 3、4枚。
画像解像度 400 dpi 以上推奨。
デジカメ撮影の場合は1メガバイト以上を目安。
プリントの場合は2Lサイズ程度。
- 概要／作品名称、所在地、建築主、設計者、施工者、用途、工期、建築面積、延床面積、構造規模。
- 説明文／作品に関する考え方を400字以内にまとめてください。
- 設計図書／選考用として平面、立面、断面、その他。

原稿期日及び送付先

- 期 日／毎月25日
- 送付先／（一社）京都府建築士会事務局
「京都だより 作品紹介」係

編集後記

本稿記述は、京都祇園祭の後祭り巡行も無事に終わり、大阪天神祭の奉納花火大会が催される、少し遅めの梅雨明け表明がなされた直後、真夏の太陽の日射しを肌と背中中で受け感じる気候の頃である。祇園祭は今年で創始1150年、天神祭も1060年余りの経緯、ともに町衆達により脈々と受け継がれてきた歴史は、ただただ敬意を表すのみである。

京都は歴史と伝統の町であるが、創意や創造性が発揮され融合されてはじめて現代性を伴う。昨今ではSDGsの様々な活動や展開を殊に見聞する。世界中誰一人取り残さない社会をつくる、8つの取り組みの柱、17のゴール、2030年を目標年とした世界の共通言語、今後10年余りにわたり世界および京都の共通基盤となっていくのだろう。

この号が発刊されている頃の本年は、いかなる天候だろうか。昨年は台風21号の猛威を受けた後、その爪痕が未だ残る場所も散在する。レジリエントな街や国土であること、今後の我々に課せられた喫緊な課題である。

（加藤正浩）

カトリック桂教会は、阪急桂駅にほど近い閑静な住宅街に所在する。聖堂の正式名は「王たるキリスト聖堂」といい、桂教会初代司祭チベリサ神父との縁で日系アメリカ人ジョージ・ナカシマに設計が託された。1965（昭和40）年に献堂式が行われた。ナカシマはアメリカ生まれの日系二世。大学で建築学と木材学を学んだ後、1934年に来日、レモンド建築事務所を経て、1934年の教会などを担当。後にニューホープで家具工房を開き、無垢材を使った家具製作デザインで世界的な木匠となった。ナカシマはこの聖堂を奉仕として設計し、現場監督はナカシマの娘ミラ氏が家具製作を統括し、後にミラ氏の夫となる甘粕哲氏が建築一般を受け持った。

ドームと呼ばれる円形シリンドラーの上に聳える十字架とHPシエルの緩やかに曲線を描きながら反りあがるシンボルな屋根の対比が生み出す造形的な外観は、住宅街のスケールに合致しながら、今なお清新な輝きを残しているという。この聖堂に携わったナカシマは、この建築にこめた想いに触れて欲しい。



カトリック桂教会 聖堂

戸田建設（株）大阪支店建築設計室 林 伸昭

表紙のこづば

総合資格学院は1級建築士も2級建築士も「日本一」の合格実績!

合格実績

No.1

2018~2014年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国

ストレート合格者
占有率

61.9%

2018~2014年度
全国ストレート合格者合計8,080名中、当学院受講生5,004名
(2018年12月20日現在)

2018~2014年度 1級建築士 設計製図試験

全国

合格者占有率

56.5%

2018~2014年度
全国合格者合計18,464名中、当学院受講生10,427名
(2018年12月20日現在)

2018年度 2級建築士 設計製図試験

当学院
当年度受講生
合格者数

2,179名

※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターに基づき、※出典:
http://www.shikaku.co.jp/index.html ※全国合格者5,997名中、総合
資格学院合格者2,179名・日建学院合格者2,137名・その他合格者1,681名
※前記、合格実績および合格者の内訳は2018年12月31日現在のものです。受講生一人ひとりの
理解度に合わせた
「真の個別指導」を実施合格をめざすなら当学院にお任せください!
令和2年度1・2級建築士 講座申込&体験入学受付中!圧倒的合格実績の理由はコレだ!!
対面型指導

当学院は創立当初から、講師が直接教壇に立つて講義を行う、対面指導型の「インタ-ライブ講義」にこだわり続けてきました。それは、受講生のみなさんがしっかり理解できているか、表情を見て確認できるからです。受講生一人ひとりに対する「真の個別指導」を実践しています。

分からない所を
残さない!すぐ質問
できる受講生
一人ひとりに最適な
学習指導試験の出題傾向や
法改正など最新情報を
即反映

お申込みは下記京都校・福知山校まで

法人サポートサービス

・合格ガイダンス ・新卒採用支援 ・社内講習会&模試
・有資格者育成プラン作成 ・願書取寄サービス ほか

長年培ってきた資格指導のノウハウをもとに、それぞれの企業ニーズに最も適した研修プログラム・講習メニューをご用意いたします!



1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級
管工事施工管理技士1級・2級
建築施工管理技士1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター賃貸不動産
経営管理士

TVCM 公開中! 詳しくは学院HPへ



総合資格学院



京都校

京都市下京区四条通西
洞院東入郭巨山町18番地 ヒラオカビル6F
TEL.075-253-0481

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

福知山校

福知山市厚東町208番地
FM-Eビル 1階
TEL.0773-25-0511

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

総合資格 検索

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ●近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION & INSPECTION

株式会社京都確認検査機構

Kind(親切) Open(明快) Certain(確実) Immediate(迅速)

■業務内容:

- 建築確認(事前審査有)・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》(業務区域:近畿2府4県)
- 住宅金融支援機構《フラット35(適合証明業務)》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画(技術的審査)
- 低炭素建築物新築等計画(技術的審査)
- 建築物エネルギー消費性能確保計画(省エネ適合性判定)

■業務区域:京都府全域

■手数料:当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。

■営業時間・休業日

◆営業時間 午前9:00~午後5:30

◆休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆

(年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします)

●土曜日も現場検査のみ対応しておりますが、検査の希望につきましては検査部にご相談ください。

〒604-0931

京都市中京区二条通寺町東入榎木町82
宮崎ビル4階●ホームページ <http://koci.co.jp/>
●Eメール sinsa@koci.co.jp

TEL: 075-256-8980

075-256-8981

075-256-8982

075-256-8984

FAX: 075-256-8985

075-256-8986

審査部

検査部

構造部

評価部

審査・構造部

検査・評価部

~ご利用をお待ちしております~

契約駐車場(新榎木町沿コインパーキング・市営御池
地下駐車場)については駐車券を配布しております。